

a long way off - 開放的な閉塞感 -

林の中にそっと佇んでる

進んでも、進んでも変わらへん表情

面白くないねんよなあ

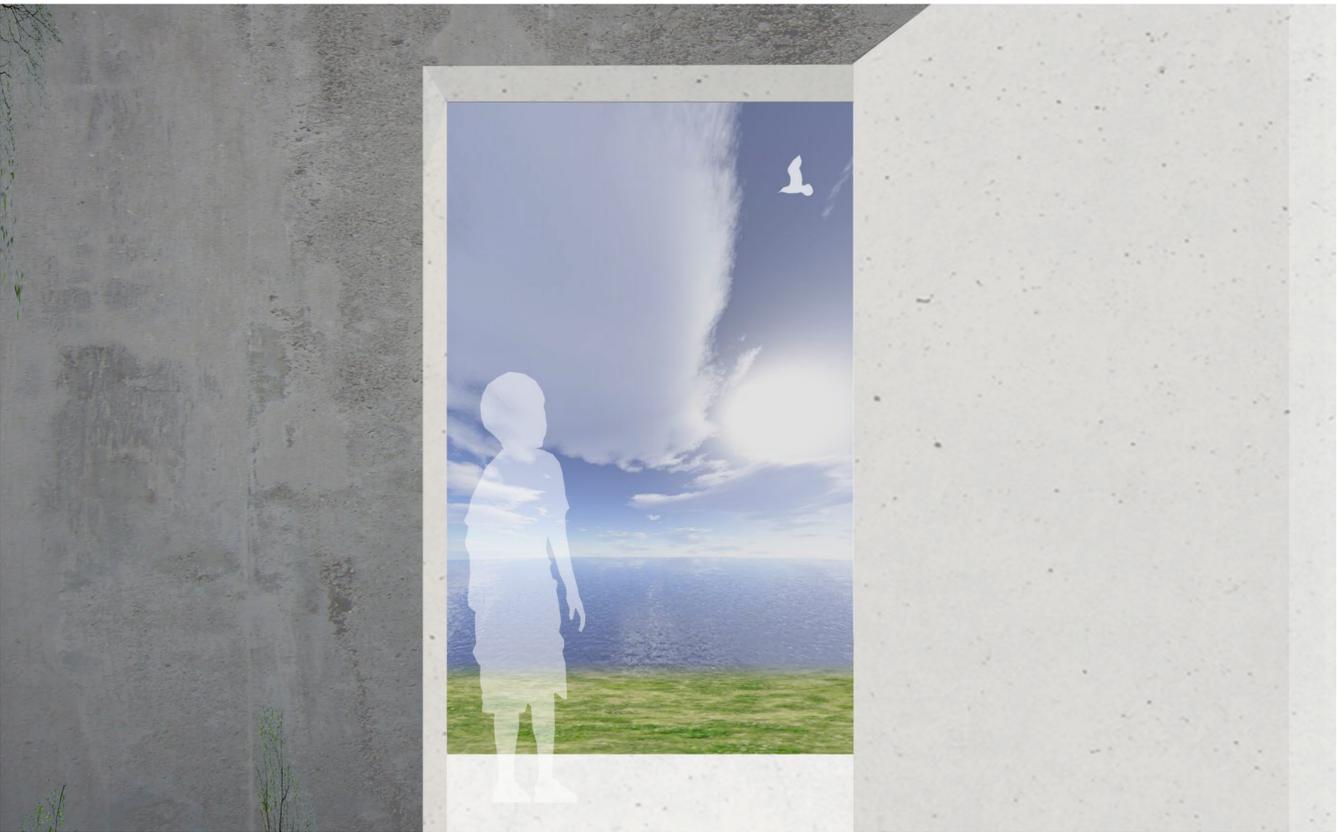
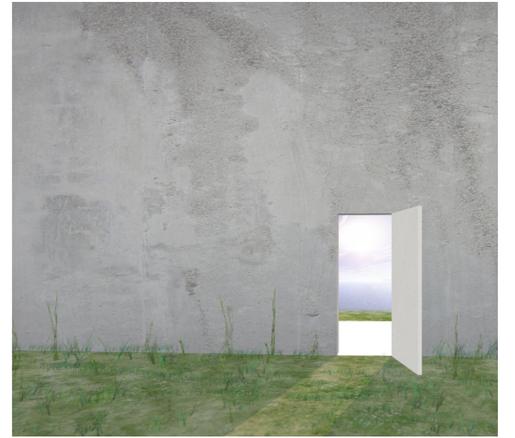
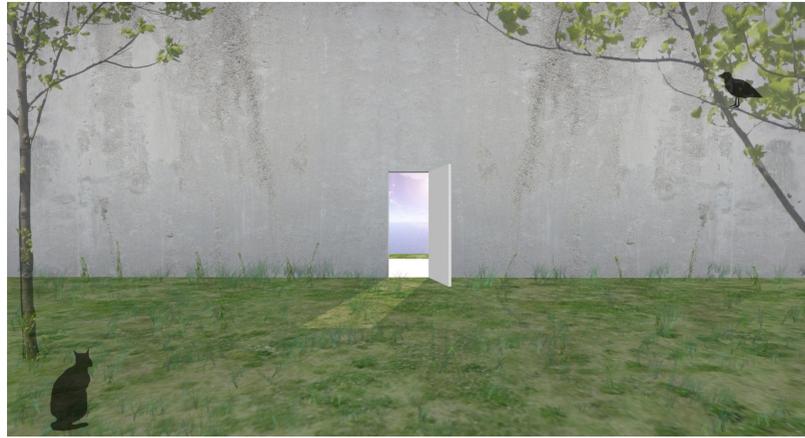
しゃーないか、ただのカベやねんから。

でも、やっぱ飽きてまうんよ

そう思うところに、いつもドアが見えるねん

やっと着いたわ

家に。



ドアを開けると、いつも気持ちの高まりを感じるねん

今までにも何回も開けてるんやけどなあ

やのに、

いつも違う表情を見せる海がおれを迎えてくれるからやろか

ああ、めっちゃ開放的でええ景色やわ

やけど、なんかもどかしいな。

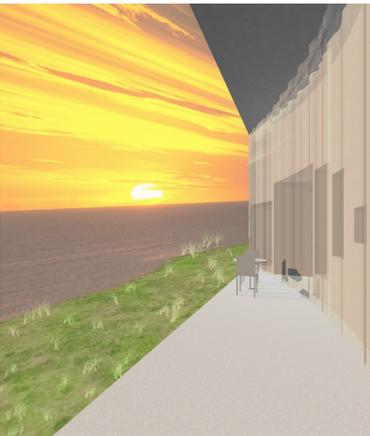
これ以上先には行けへん

もう、オクには行けへん、

ただずっとむこうの景色を眺めるしかできひん

ただ、どこまであるかわからへんオクの景色を

あのオクでは何がおこってるんやろ、



開放的な閉塞感

海は、奥への意識を高める特性をもっていると考えた。

海辺はとても開放的な空間である。しかし、波打ち際の先（奥）へは進むことが出来ない。その進めないということから、我々は閉塞感を感じる。その閉塞感は、波打ち際の先（奥）の景色はもちろん、地平線の先（奥の奥）への興味を引くきっかけとなる。

海はとても開放的で、色々なものが見えてくる。しかし、ずっと眺めていると、見えているものより、もっと奥にひそむ何かに思いをはせていることがある。

このような特性をどのように活かすか、ということ考えた。

既に奥が存在しているため必要最小限の操作をするということが重要である。そこで、新たな一つの境界を作る。

一枚の壁を設置し、その壁に一つのドアを設けた

断面ダイアグラム

